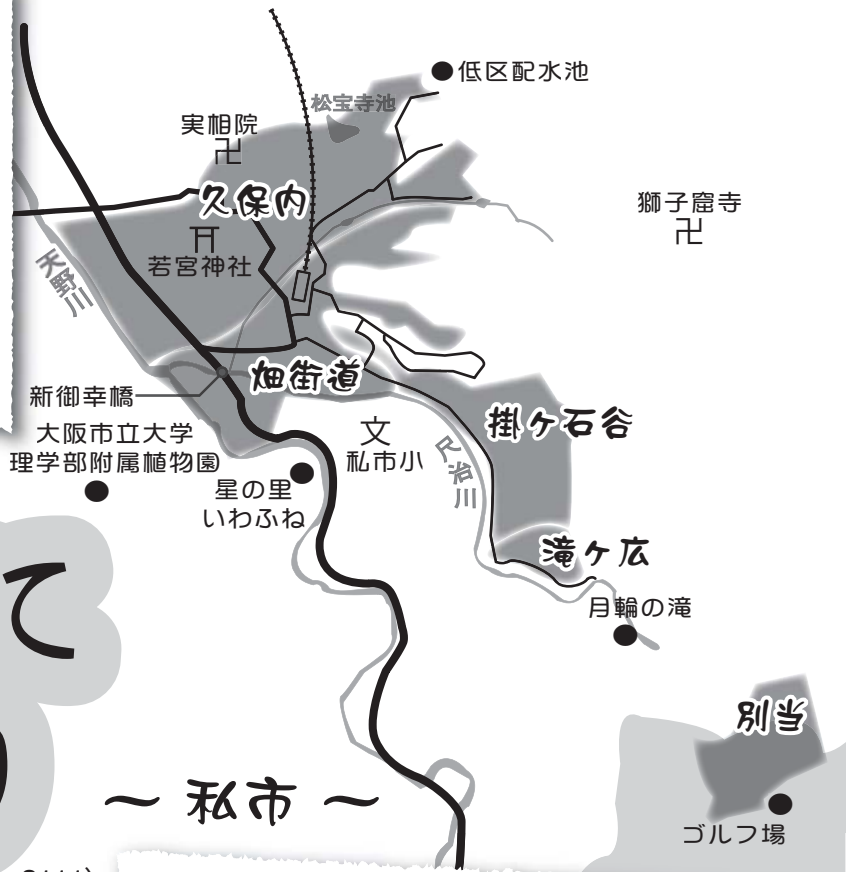


くぼのうち 「久保」は、くぼんだ  
**久保内** 土地から転じて、水の湧き出る土地も意味するようになりました。私市のほかに、森と郡津にもこの地名があります。

私市の久保の範囲は広く、天野川から東の台地上の松宝寺池付近までを指します。その中心は若宮神社周辺で、山からの湧き水が豊富で田の水が枯れることのない、一等地の水田となっています。



# まちの名に歴史あり

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

かけいしだに 月輪の滝から、尺治谷を  
**掛ヶ石谷** 抜け、天野川と合流する尺治川の北の崖から上一帯を掛ヶ石谷と言います。その由来は、腰を掛けるのにちょうど良い岩があったとか、有名な人が腰をかけた岩があったなどと言われています。

これは、獅子窟寺で弘法大師が修行したという言い伝えがあるため、この有名な人とは、弘法大師のことではないかと、地元では言われています。また、新御幸橋から北に下る坂を「大師」と呼んでいます。

はたかいどう  
**畑街道** 天野川が、山から私市の集落に出たところにあたります。現在、天野川は崖下を流れていますが、かつては土砂の流入が激しく、土砂の堆積と川の氾濫による荒地でした。開墾により、多くの土地が畑に変わりました。そのため本来なら「畑垣内」と記す場所ですが、磐船街道沿いにあるため、「垣内」が「街道」と記されるようになったのかもしれませんが。

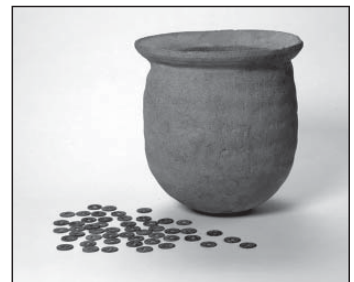
※垣内……新しく開墾した土地

たきがひろ  
**滝ヶ広** 月輪の滝の下に、少し広い平らな土地があり、祭壇を設けて大勢の人が集まる祭礼を行うのに適した場所です。

昭和45年の宅地造成の際に、ここから飛鳥から奈良時代に作られた「埴仏」と、平安時代初期のお金である「富寿神宝」50枚と、人骨が納められた壺が発見されました。



埴仏



富寿神宝と壺

べつとう  
**別当** 別当には、さまざまな意味がありますが、大きな寺では、寺務を統括する最高責任者を別当と言いました。

私市の別当はゴルフ場の北にあり、月輪の滝から上がってきたところで、ここに獅子窟寺の別当の住む庵があったのかもしれませんが。